

横芝の碑

(その九十三)

天気神様として信仰？ 牛熊の庚申様

牛熊部落の南側の道を谷台方面
に向って行きますと、部落の外れ
から急坂になります。この坂は間
もなく緩やかになり、そして、何
となく一息つきながら辺りを見廻
しますと、道の両側は、丁度堤の
様に高くなっていて、その上の左
側には庚申様、右側には道祖神様
が、通る人を見下す様に、向かい
合って建っています。すぐ先はT
字形の三岔路になっていて、本道
よりは少し細い道が下り勾配に林
の中に消えています。近くの山仕
事をしてきた人が「この道は、多
古や芝山にも往ける昔からの道で
すよ」と教えてくれました。

庚申様は、今から約三百年前の
貞享三年（一六八六）建立と刻銘
されています。私の寡聞な記憶で
は、横芝町内の青面金剛神を本尊
とする形の庚申様としては、一番
古いものと思います。（庚申信仰
については、種々な結び付きから
その本尊の取扱いも、様々に解釈
されているようです。例えば、古
川部落の庚申様は、青面金剛神が
本尊とされているようですが、付

近に、山王権現の祠と思われる石
造が存在しているのに、山王信仰
を口にする人が全くおりません。
これは、昔は、山王権現が本尊で
あった筈の庚申信仰が、何時か青
面金剛神を本尊と考えるように、
変って来たのではないかと思われ
るのです。）

貞享三年と言いますと、我が国
では、五代將軍家綱が、生類憐み
の令、という悪政を布告した前の
年であり、外国では、ニュートン
が万有引力の法則を、発見した年

（一六八六）になりますので、随
分昔になる訳です。処が、そうい
う古い庚申様である、ということ
を地元の人々は案外気付いておら
れない様子です。これは、牛熊と
いう部落が、大同年間（八〇六）
八一〇）の創建と伝えられる八幡
神社を産土神様としていることや
又この八幡様が、坂田城主三谷氏
に尊崇されていたこと等の大きな
史実の中に影をひそめて終って
いるのかも知れません。正月や庚申
日の祭りも殆んどない、という話
です。そうした中で、或お年寄り
の方が、こんな話をしてくれまし
た。「自分の祖父が、天気の変わり
目に、腹痛や腰痛が起きると『庚
申様のバチが当たった』と言っては
庚申様の方に向って拝んでいた」
というのです。

天気模様で体に変調が起こる、

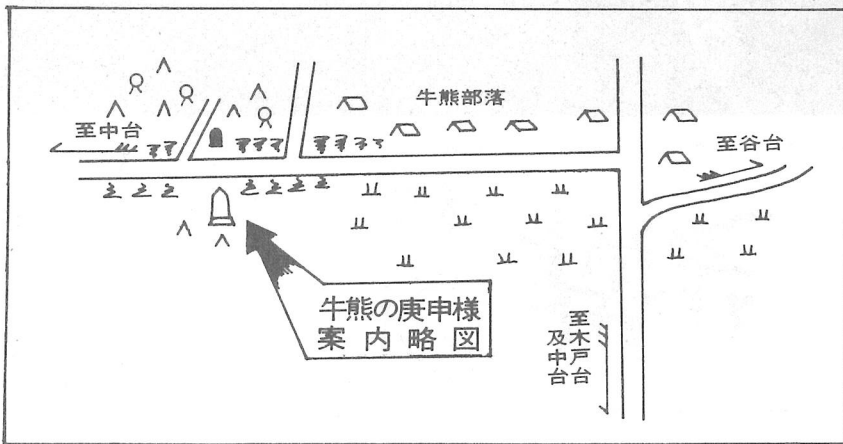


▲天気神様といわれる庚申様

という話は昔から聞いています。
私は、このお年寄りの話を聞いた
時、青面金剛神と、帝釈天の結
び付きを考えて見ました。日本放
送出版協会編「仏像の心と形」に
よりますと帝釈天は、仏教以前か
ら印度人の間で信仰され、聖なる
山とされている須弥山の頂上に住
み、天上界に於ける天候等自然現
象を支配する威力大なる神云々、
とあります。

稲荷様の使いである
狐が、ともすると稲荷
の祭神である如くに考
えられているのと同じ
様に、帝釈天の使神で
ある青面金剛神が、帝
釈天の、神力である筈
の天候支配の威力を持
っている様に解釈され
て、天気の変わり目等
起こる体の変調は庚申
様の力として信仰祈
願の対象神とされてい
たのではないかと思わ
れるのです。

この、お年寄りの方
の祖父（おじいさん）
というのですから、恐
らく大正の初期か明治
末期の頃だと思います。
がそれにしましても、
庚申信仰の思想や形と
して、今までに見聞し
なかった、新しいも



のを発見した様に感じました。
◎写真はその庚申様で、青面金剛
の両側には、貞享三年正月五日、
とのみ刻まれ、建立者の地区及氏
名等は刻まれていません。それが
三百年前の人々の素朴さかも知れ
ません。

町文化財審議会委員
小沢春光氏寄稿

(五五・七・二〇)